



兵庫教育大学は、教員の養成と研修を中核とする「教員のための大学院大学」として、全国に先駆け創設され、1980年の4月に大学院修士課程が開設されました。

同窓会の会員の多くは、この修士課程に学び、より高度な教育研究をとおり、教員に必要な理論的、実践的な能力の向上を図るとともに、教育研究の成果を学校教育現場の教育実践に還元されてきました。2008年には、30年間の修士課程の実績を活かしつつ、教職大学院として専門職学位課程を開設し、現代のさまざまな教育ニーズに対応できる高度な専門性と実践力、応用力を備えた教員の養成と研修に取り組んでいます。

教職大学院は、本学の創設理念を受け継ぎ、養成する人材について、次のように示しています。

- ・現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた

教育専門職としての力量形成を

兵庫教育大学 副学長 米田 豊



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

「小目野」の地に立つわが母校」

第42号

平成30年（2018年）3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

実践力・応用力を備えたスクーラー
ダーを養成します。

- ・学部段階で教員としての資質能力を修得した者の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員を養成します。

教職大学院の開設から10年が経過しました。その成果を名実ともに発展させるために、2021年を目途に修士課程の教科教育分野を段階的に教職大学院に移行します。まず、2019年には、言語系教科マネジメントコース、社会系マネジメントコース、理数系マネジメントコースを教職大学院として開設します。

創設期の「教職大学院案内」で「教育専門職としての力量形成を」と題して、次のように呼びかけました。教職大学院の特徴を分かりやすくお伝えするために再録します。

「現職教員の方は、今までの教育実践を振り返り、それに科学の光をあてた研究をすることを通して教員としての高度な専門性を修得してください。新人教員となる方は、それぞれの学校で即戦力として活躍できる、教員としての高い力量を身に付けてください。」

本専攻では、共通科目や専門科目に加え、すべてのコースで実習科目が課せられていることに大きな特徴があり

ます。現職教員の方は主としてそれぞれの現任校へ、新人教員をめざす方は連携協力校等で長期にわたる実習を行います。実習科目の履修を通して、それぞれの研究課題を実地に探究するとともに、教育者としての使命感や子どもたちへの人間愛を再確認してください。

教育現場や教育委員会等での優れた実践経験のある教員と従来からの教員がスクラムを組み、200を超える連携協力校（小、中、高等学校）や教育委員会、適応指導教室等と協力して、授業や実習にあたります。大学教員からだけでなく、連携協力校や教育委員会、適応指導教室等の先生方、専攻やコースのなかまと相互に刺激しあって、教育専門職としての力量を高めるために共にがんばりましょう。何より子どもたちのために。」

ここに示したことは、今後段階的に修士課程から教職大学院に移行する教科教育分野でも同じです。教員の仕事は、学びの主体である子どもの存在なくして成り立ちません。教育専門職としての力量は、子どもを鑑として評価されます。

兵庫教育大学は、「教師教育のトップランナー」として走り続けますので、同窓会会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。

ブロック活動の紹介 (8) (通算)

— 近畿②・近畿③ブロック —

大阪府支部代表

雲井 稔

教職員の本学派遣を休止・削減する自治体が増えたことにより、組織拡大や人事刷新が期待できない、という先細り状態が支部活動への意欲を低下させている。大阪府支部もその例外ではない。現状打開への模索を続けるなか支部活動活性化に向けた千載一遇のチャンスととらえ、第36回全国大会の開催を大阪でお引き受けた。以下、その取り組みの一端を述べる。

本部から提供された名簿をもとに、支部会員全員に連絡をとることからスタート。とはいえ通信費をどう捻出するかというシビアな問題に直面。予算不足や事務手続きの煩雑さから必要を認識しながらも手付かずであった全会員への連絡は、積年の懸案であった。同窓会本部から支援いただいた支部活動・ブロック活動助成費は強力な追い風であった。

何事につけひとつの事業を成功に導く要諦は、最終的には「ひと」に帰着する。幸いにも大阪府支部には個性豊かな人材山脈が幾重にも。先輩方は自身の豊富なネットワークを活かし、大学をはじめ様々な分野で活躍する修了生に声を掛けてくださった。また、ハーバーランドキャンパスで学ぶ現役生たちも呼び掛けに呼

応し、「何でもするよ。」と積極的な申し出が。お蔭さまで、常連組に加え、同窓会活動への参加は初めてというフレッシュな顔ぶれの糾合に成功した。この時点で、大会の成功をはや確信した次第。

さらに、大阪大会で特筆すべきこととして、隣接する近畿③ブロックとの連携協力があげられる。大阪府支部を中心に、和歌山県・奈良県の両支部と共に力を結集し大会の盛り上げに全力投球。大会終了後、共に汗した連携協力の継続・発展を願い、2ブロック合同の夏季研修会を企画。昨年に引き続き、内容的にはさらに充実した研修会が本年も8月27日に開催することができた。

成功裡に終えた全国大会後の課題は、大会に参集された会員の同窓会に対する様々な思いや願いをいかに支部活動に反映させるかということである。大阪府支部ではこれまで、①春季総会、②夏季研修会、③冬季情報交換会と年3回の活動を核として、会員相互の情報交換を図りつつ個人の研究・研修に励んできた。この良き伝統をさらに継続・発展させ、「同窓会に入って良かった。」「大阪府支部の活動に参加して成長できた。」と言われるようにと願う。今、強調されているブロック活動の展開は、支部活動の活性化なくしてはなしえないと考える。

ブロック活動の紹介 (9) (通算)

— 関東ブロック —

関東ブロック長

清水 政義



8月5日・6日、緑濃き江戸城外堀を眼下に望むアルカディア市ヶ谷(私学会館)において平成29年度兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会・関東大会を、盛会のうちに終えることができました。

本大会を成功させることができましたのも、約140名の参加者と同窓会役員の協力の賜物と感謝申し上げます。

例えば、平成28年3月25日、JR東京駅に、関東ブロックのメンバーが参集したのが、関東大会の始まりでした。

この準備会で、松尾鉄城大会実行委員長を選出し、実行委員会が立ち上がりました。その後、約一年間にわたり、委員長を中心に関東ブロックに所属する各県支部の協力を得て準備が進められました。実行委員会として会場を設定し、集まった日を列挙すると次の通りです。

平成28年

3月25日	実行委員会準備会(初顔合)
5月14日	実行委員会準備会
8月6日	大阪大会出席
8月25日	実行委員会
9月23日	役員会準備
11月12日	役員会
11月19日	本部役員会出席
11月22日	役員会準備

平成29年

1月14日	役員会準備
1月28日	役員会
2月18日	本部役員会出席
2月25日	実行委員会・懇親会
4月28日	役員会準備
5月24日	役員会準備
5月31日	会場下見
6月7日	役員会準備
6月10日	役員会
6月16日	会場打合
6月17日	本部役員会出席
6月23日	役員会準備
7月11日	役員会
7月15日	実行委員会
7月17日	巡検下見
7月31日	役員会
8月4日	役員大会前日打合

大会の前日まで、準備に注力してきたことがお分かりいただけると思います。

実行委員会のメンバーは、各県支部からの参加であった上に1期から31期までと幅広く、今回初対面となったメンバーが多かったです。

しかし、実行委員会や役員会の回数を重ねるごとに共に議論できる状況が生まれました。最終的には約30名の実行委員の方々が、快く様々な役割を分担して下さったおかげで、大会運営も滞りなく進みました。今回の大会運営で得た最大の成果は、人のつながりです。

今後、各支部の活動を基に、関東ブロックとして何が必要なのか何ができるのかを考えながら、新たな活動をスタートすることができたらと考えています。

第37回 兵庫教育大学大学院 同窓会総会・研究大会「関東大会」

標記の大会が、平成29年8月5日(土)6日(日)の両日、東京都のアルカディア市ヶ谷私学会館をメイン会場として開催されました。全国各地より大学関係者や同窓生、一般参加者を合わせて142名が参加し、関東ブロック一都六県がブロック・支部活動の力を結集して行われ、とても有意義な大会となりました。

本大会開催にあたり、事前の周到な準備から、当日のきめ細やかな運営全般に至るまでご尽力賜りました松尾鉄城大会実行委員長を始め、ブロック各支部から集われた委員の皆様に対し、衷心より厚くお礼申し上げます。有難うございました。

「学長挨拶」

兵庫教育大学長

福田 光 完



第37回兵庫教育大学大学院同窓会関東大会の開催おめでとうございます。松尾先生をはじめ

関東ブロックの諸先生方におかれましては、この一年、あるいはそれ以上の期間ご尽力いただき、今日の開催を迎えられますこと、感謝申し上げます。また、この会場に参加してくださいました皆様方、そして遠方から来られた皆様方にも、大学を代表してお礼申し上げます。

先ず始めに簡単に、今の兵庫教育大学の大学院の状況をお話します。

約10年前にできた教職大学院は25大学で活動し、しばらく数もそのままでした。これが、平成25年あたりから、大学のミッ

シヨンの再定義、教職大学院の拡大が本格的に国・文部科学省で議論されました。そして、この4月には、52大学が参加、国立大学では高知大学は来年度となりますので、それを除く全ての国立大学に設置、但し鳥取県と島根県の場合は島根大学に設置されるという状況になりました。

この会場におられます昭和の終わりから平成の始め頃に本学に学ばれた皆様の兵庫教育大学の様子からすると、本当に変わったということになります。

1970年代の後半に、兵庫教育大学、上越教育大学、そして鳴門教育大学の3大学が教員の学び直しの地として、発足するという大きな意気込み、そして大きな日本の将来の教育の期待をかけて出来上がったのが本学でございます。90年代からは教員養成の学部として教育大学に大学院の修士課程が整備されるということになりました。そしてまた、14条特例で、1年間だけ大学院に通って、あとの1年間は現場から通えばよいというシステムができました。それから、教職大学院ができたのは、2006年2007年の辺りでございました。その頃から、様子が変わってきております。私が本学

に赴任したのが、1985年で、その頃は200名近くの現職の先生が学ばれておりました。

現在は、派遣で来られている方は兵庫県・神戸市を合わせて約50名でございます。その他、プラス全県合わせて20名に達するか達しないかという現状です。もう少し詳しく申しますと、毎年派遣をいただいている県は静岡県、愛知県・名古屋市、和歌山県、鳥取県、山口県、愛媛県、沖縄県そして比較的定期的に派遣いただいている近畿の府県としまして京都府、そして大阪府も一部派遣を復活されております。他県におきましては、全面的に派遣を取りやめたところも多数あります。今年度は関東から、東京・神奈川県・埼玉と1名ずつ来られています。このような状況で関東大会を開いていただいているわけです。

全国の教員が本学で学んでいたかどうかというのが、本学のミッションです。派遣が難しいときは、将来的には研修で、管理職研修をはじめ、いろいろな課題解決型研修を本学が代表して全国規模で行うことを考えています。何かと、教育をめぐる状況はどんどん変わり、子どもたちの置かれている状況も変わってきている。この中で、本学のやるべき事は何かこれから日本の教育、子ども達の未来にどういうことが出来るのかを真剣に考えて、取り組んでいかなくてはなりません。

話は変わりますが、学校教育、そして教育界全般の話だけではなく、日本そして世界をとりまく状況が変わってきています。特に、この一年、AIやコンピュータの話をしている企業の方から聞くと、激しく変わってきています。先日、企業の方と話をする10年後に今のような就職のシステムはもう変わっているだろう

う、全員が同じ時期に経団連が定めたような日を決めて、大学4年生が一斉に就職活動をするということをやっているのは、日本はだめだ、ということでした。このように変わっていく世の中で、教育界も変わらなければならない。どのように変わっていくのか、今の子どもたちが就職するときはどういう状況になっているのか。10歳の子も10年後は変わってきています。昨年の出生数が97万7千人で日本を支える若い人がどんどん減ってきています。120万人いて30、40万人が何もしないのと、80万人いて30、40万人が何もしないのとでは明らかに状況が違うのです。ちなみに出生数が100万人を越えたのは、歴史的に明治16年あたりからで、ずっと出生数は100万人以上を維持してきました。団塊の世代は200万人以上で今の18歳世代は120万人です。その子ども達の世代とまた今の100万人の子どもの世代と、どんどん減ってくるのです。これからの日本が抱えていく問題は、きわめて険しい道を歩んでいくことになります。そこで、誰にそれを託すのかという、まさに、今の子どもに託していかなくてはなりません。

そのためには、今まで通りで良い訳がないのです。ものを覚えさせて、知識で「ハイ、何点取りました。」というような、満遍なくいろいろな教科が出来るだけでは良いわけがありません。だから変わらなくてははいけません。アクティブラーニングという話もあるように、教師が知識を注入するような授業はバーチャルリアリティでもできます。あるいはAIを使えば、もっと効率的な授業もできるのです。

このようなことを考えて、将来教育で子どもたちに何が出来来るかを考えていくにはありませんか。

課題の発見・解決に向けた 主体的・協働的な学び

～生活科 校内探検の実践を通して～

発表者 小学校教員養成特別コース31期

早川 聡



◆主体的・協働的な学びとは

児童が「何のために」「何について」と

いう課題意識を自ら持ち、「どのような」という解決の方法も意識して行う学びのことである。そこで、学級内で課題意識を共有し、「協働」の必要感が高まり、自ずと学び合いの必然性が生まれる生活科の実践を行った。

◆生活科 校内探検の実践

題材名 「きく」のその だいばうけん

(全18時間)

題材の目標

○自分が調べたことや友達と情報を共有することを通して、学校の施設や人について、それぞれの場所に役目があることに気付くことができる。

○自分の発見したことや興味をもったことを深め、自分のことばや絵で積極的に表現する。

○学校の人たちと直接ふれあったり、

家の人を案内したりして、学校生活における自信をつかむ。

題材の流れ

- ① 二年生と校庭で遊ぶ。
- ② 校庭にある物探しをする。
- ③ 校内探検をし、学校の施設を調べる。
- ④ 教室の設備と物を調べる。
- ⑤ 学校の先生や働く大人たちを知る。
- ⑥ 「?」(はてな)を見付ける。
- ⑦ 「?」(はてな)を解決するために、再度調べたり、インタビューしたりする。
- ⑧ 調べてきた「?」(はてな)からクイズを作り、グループや縦割り班(生活班)でクイズを見直し、案内原稿を作成する。
- ⑨ お家の人を学校案内し、「?」(はてな)を伝える。

◆成果と課題

成果は次の二点である。

- ◎ 子どもたちに学校には場所だけでなく、人も役目を担っていることに気付かせることができた。

◎ 「場所」「人」「役目」という言葉、つまり押さえたことが焦点化され、児童一人一人が課題意識を持って、学習を進めることができた。

□ 課題は、「役目」の判断基準が曖昧なことである。また、入門期の一年生にどこまで考えさせるかの見極めが大切であり、丁寧に学習を進めていくと、多くの時間数が必要となることである。

視点移動という知的操作の 訓練習得が道徳科の 目標達成を促す

発表者 自然系2期生

荒井 豊



自然の事物・現象を理解(認識)する上で視点(座標)を定めて観察する

重要性は以前から指摘されている。しかしながら、その物体の裏面、側面がどのように見えるかや内部がどのような状態なのかまでをイメージすることは、児童生徒にとって難しい。このような空間認知(対人関係)について、ピアジェの発生的認識論は、自ずから身につく認知能力と考えられている。

一方、ギブソン理論では、環境との相互依存性に注目し、環境の中に存在する価値を持った情報を言い表す、「アフォーダンス」と言う言葉を提唱し、空間に関する一般化した視点移動能力の発達を否定している。そして、空間認識(対人関係)においては、人と環境とは相互に依存し影響を及ぼし合っているとして、他視点(他人の心へ視点を移す)の取得理論も、環境との相互依存性を踏まえたものでなく

てはならないと主張している。

筆者は、このギブソン理論に立脚し、学校現場で意図的計画的な視点移動能力の指導を試みた。

特に理科教育における天体、気象、地質などの地学領域の巨視的空間認知を伴う自然事物・現象の理解(認識)のためには、視点(座標)の移動(変換)の知的操作という科学的思考・表現の一要素である視点移動能力が必須である。本研究発表では、この視点移動能力の育成を図る意図的計画的な理科指導法について実践的研究を述べる。

この研究成果をもとに教科として新たに位置づけられる道徳科の目標達成に、視点移動能力が如何なる関わりがあるかについて考究する。

理科学習での心的な視点移動という知的操作は、道徳の授業で行う役割取得、すなわち感情領域の他視点取得能力に即応する。理科における科学的思考・表現の一要素と言うべき心的な視点移動という知的操作を育成することにより、道徳科の目標達成が促進されると推察できる。例えば、学級や班活動において、班員の気持ちを慮りながら、自分の考えを主張していく対人関係の機微を弁えての言動、行動が的確に行えるようになる。

視点移動能力の訓練習得する理科教育は、未来の難題を自ら解決する学習を目指す道徳教育「考え、議論する」を支援するものである。

記念講演

「道徳の

『特別の教科』化と

新しい教育課程が

求めるもの」

東京学芸大学教職大学院教授

永田 繁雄



「講演会

よく寝た人ほど

拍手する」。

会場の張りつ

めた空気が、

この一句で笑

いに包まれ穏やかな空間に一変する。話し手と聞き手の距離が一気に接近。永田先生の示唆に富む内容、時に熱く、時にユーモアを織り込む講演に、会場が一つになっていった。

講演の導入でのお話。一部であるが紹介すると、次のようになる。

昭和33年、戦後型教育と道徳授業が始まった。それから60年（還暦）という時の流れを経た現在、大切にすべきもの（不易Ⅱ芯）を守るために、常に新しさ（流行Ⅱ柔軟さ）を大切にして、学校教育改革に立ち向かう問題意識が求められている。

そして、いよいよ本題に入る。ここでは、当日配布された講演資料「社会と豊かに関わり、自己を高める心を育てる学校教育」を参考に、講演の概要をお伝えしたい。

1 学校教育改革と道徳教育改善の底流となった背景と要因

(1) 子供たちの心の成長に関わる危機

的な状況が続いている

・人並みの能力を感じる自尊心の割合が低い。

・孤独感や疎外感を強く感じる傾向。

・いじめの認知件数が低年齢化・最多更新。

＊これらの背景にあるもの

・子供に降りかかる社会的状況……貧困、経済格差、社会的な差別の課題など。

参考

・子供の成長…学力、体力、心の関係の中で見えない「根」に関心を向ける。

◇根つこの力Ⅱ生命力Ⅱ心の活力↓子供自らが伸びようとする力。（自己を開発する力。）

(2) 道徳教育の実施の実態に大きな課題がある…全国的に見られてきた課題

（問題例）道徳教育の忌避傾向と軽視化の傾向。

（問題例）道徳授業の硬直化傾向。

2 子供たちの渴望する心を育て、豊かな生き方を生み出す

参考

・「もつと自分で…」「もつとみんなと…」と「生き方」の視点を多角的に広げる。

・様々な教育活動を多面的に生かし合い、豊かな「生き方」を後押しする。

3 学習指導要領・道徳の先行改正で大きく変わったところ（6ポイント）

(1) 道徳教育と「特別の教科道徳」の目標の関係…一体的に理解できるようにした。

◆道徳教育も「特別の教科 道徳」も「道徳性」の育成を目指す方向性を

前提とする。

(2) 道徳科の目標…「考え、議論する道徳」への一層の転換を求めた。

◆物事を「多面的・多角的」に考える授業にする…議論する授業への転換。

◆「道徳的な判断力」を育てることを意識…生き方について考え、判断する力を重視。

(3) 道徳科の内容項目…一層充実させ、課題への対応が目に見えるものとした。

◆4つの視点の区分を穏やかなものとし、視点の順を見直した。

◆キーワードを付け、発達段階の一貫性を分かりやすくした。

◆いじめなどの子供の心の問題への対応が目に見えるようにした。

(4) 道徳科の指導の在り方・方法…アクティブ（能動的）な授業への一層の「質的改善」を求めた。

★「アクティブ・ラーニング」とは、主体的・対話的（協働的）で深い（能動的な）学び。

(5) 道徳科に求められる教材…教科書とともに地域（郷土）教材・現代的課題の教材等を併用する。

◆教科書を中心的に使用しながら、多彩な教材に心を向ける。

・多様なジャンル、地域教材、形式（文章・映像等）に広げた教材の開発も…
(6) 道徳科における評価…学習状況や道徳性に係る成長の様子について支援的評価を継続する。

◆数値による評価ではなく、道徳性に

係る成長の様子を中心に把握する。

4 柔軟な（いわゆる「筋肉質」の）授業をつくるには…

【そのための3つの明確な方向性】

①主体的な取組…問題意識…教師の方向付けに留まらず、子供自らが問いをもつて臨む。

②協働的・対話的な追求…問題の追求…人物への共感に留まらず、価値や生き方を話し合う。

③能動的な学び…磨き合い…多様な感じ方…考え方を並べて終わらず、自己の納得を求める。

5 多面的・多角的思考を促すために…全体的視点を含む発問を生かす展開を

■①「場面発問」・「テーマ発問」…場面に着眼するか、テーマに着眼するかで発問が変わる。

■②発問の大きさ等…発問の大きさを意識して、大きな発問も授業に織り込む等。

■③発問の立ち位置等…教材や人物に対する多様な立ち位置を生かして発問を組む等。

◆共に豊かに生きようとする心の力を引き出すために、子供の生き方を広げる教育を…

◇子供の自ら伸びる力を信じて関わろう…

◇子供が「生き方の選択肢」を広げるために、プラス思考をもとう…
◇閉じる発想ではなく「開発的発想」で授業を開拓しよう…

↓子供の考える過程でつくる授業を！
↓子供にとって歯ごたえのある授業を！

平成29年度 教育実践研究活動等に係る受賞者

(五十音順・敬称略)

	氏 名	教育実践研究活動等の内容	専攻・コース・期
嬉 野 賞	あらい ゆたか 荒井 豊 (埼玉県)	教育現場での豊富な経験を踏まえ、理科教育指導法に関する実践的研究を深め、平成21年には兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科に博士論文を提出し、博士号が授与された。また、同窓会活動の発展に尽力している。	教科・領域教育専攻 自然系コース 2期
	なかぞの だいさぶろう 中園大 三郎 (大阪府)	特別活動を専門領域に、キャリア教育の視点から係活動について実践的研究を深められた。特別活動に関する、単著・共著・論文等を多数執筆するとともに講演活動にも熱心に取り組む。現在も大学と同窓会の発展に尽力している。	学校教育専攻 生徒指導コース 3期
	はいし のぶひこ 拝師 暢彦 (京都府)	教育現場での地道な実践とともに、同窓会活動に尽力し組織づくりに果たした功績は大きい。退職後も、学び続ける教員として在職した学校の沿革史を自費出版するなど社会貢献活動にも熱心に取り組んでいる。	教科・領域教育専攻 自然系コース 2期
奨 励 賞	おおしま ひろし 大島 浩 (栃木県)	教育実践研究論文「課題探求型モデル学習の構成」SSH(スーパーサイエンスハイスクール)での取組をもとに、学習の活用能力を育む課題探求型の授業や指導方法について研究を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	教科・領域教育専攻 自然系コース 3期
	しぶたに よしひと 澁谷 義人 (兵庫県)	教育実践研究論文「より深く地域と連携した高校教育の実践」地域を支える人材育成を目指す、小規模普通科高校の地域を巻き込んだ取り組みの成果について研究を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	学校教育専攻 スクールリーダーコース 26期
	ふるや みつはる 古屋 光晴 (兵庫県)	教育実践研究論文「特別支援学校における大学等への進路指導に関する一考察」高等学校に準ずる教育課程で学ぶ肢体不自由の生徒に対する進路指導の在り方について研究を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	教育実践高度化専攻 学校経営コース 34期
	みやうち ゆきと 宮内 征人 (鹿児島県)	教育実践研究論文「中学校国語科における年間を見通した書くことのカリキュラム構想と実践の研究」中学校国語科における、年間を見通した「書くこと」のカリキュラム作成と指導の成果について研究を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	教科・領域教育学専攻 言語系コース 28期
	みやがき さとる 宮垣 寛 (兵庫県)	教育実践研究論文「兵庫県の理数教育推進事業について」科学好きの児童生徒の裾野を広げるとともにトップ層を伸ばす、兵庫県独自の理数教育推進事業の取り組みについて研究を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	教科・領域教育専攻 自然系コース 20期



●兵庫教育大学大学院同窓会募集「教育実践研究論文」

募集要項につきましては、同窓会事務局へお問い合わせください。

●兵庫教育大学大学院同窓会事業「古本募金で兵庫教育大学を応援しよう」

あなたが読み終えた本が募金となって教育支援に役立てられます。送料もかかりません。宅急便が自宅へ受け取りに伺います。詳しくは兵庫教育大学のHPをご覧ください。

平成28年度で大学院同窓会役員を辞された方々

支 部	氏 名 (コース・期)	退任時の役職	備考	支 部	氏 名 (コース・期)	退任時の役職	備考
1 宮城県	菅原 廣次 (言語系3期)	理事 (副ブロック長)	H29.8.1逝去	10 大阪府	松村紀代子 (幼年教育31期)	理事	
2 山形県	和田 妙子 (言語系5期)	支部代表		11 兵庫県	上西 一郎 (自然系5期)	理事	
3 東京都	石井 清文 (社会系13期)	理事 (ブロック長)		12 兵庫県	森 一郎 (教育基礎15期)	理事	
4 長野県	笠原 忠照 (自然系3期)	支部代表		13 長崎県	橋本 郁朗 (生徒指導8期)	支部代表	
5 岐阜県	中根 弘之 (教育経営2期)	監事		14 大分県	藤原 崇能 (言語系15期)	支部代表	
6 静岡県	望月 茂 (教育経営8期)	監事長		15 宮崎県	大坪 文二 (教育方法4期)	理事 (ブロック長)	
7 大阪府	吉原 照昌 (社会系3期)	理事 (ブロック長)		16 宮崎県	久島 孝昭 (教育基礎7期)	支部代表	
8 大阪府	吉田恵美子 (教育方法12期)	理事		17 鹿児島県	室屋 賢三 (生徒指導8期)	支部代表	
9 大阪府	恩知 忠司 (教育経営18期)	理事、支部代表					

平成29・30年度兵庫教育大学大学院同窓会役員名簿

(自平成29年6月1日～至平成31年5月31日)

会長 川村 庸子 (岩手)

相談役 武 素稔 (岡山) 酒巻 成欣 (大阪) 吉田 廣 (兵庫) 山下 裕 (広島) 大橋 博 (兵庫)

副会長 専門部長代表 船本 秀忠 (兵庫) 山本 紀代 (和歌山) ブロック長代表 篠田 裕文 院生協代表 白井 洋 (兵庫) 事務局長

監事 長 北山 鎮道 (岡山) 監事 田中 嘉明 (兵庫) 中国大 三郎 (大阪) 早川 求 (鳥根) 玉木 隆 (岐阜)

ブロック (専門部)	北海道・東北	関東	東 部	中部・東海 (組織部)	近畿① (総務部)	近畿② (研究部)	近畿③	東中国・四国 (会計部)	西 中 国 (広報部)	九州・沖縄
専門部長	—	—	勝俣 得男 (静岡)	勝俣 得男 (静岡)	船本 秀忠 (兵庫)	中尾 豊喜 (大阪)	—	佐々木 勇 (岡山)	毛利 直己 (鳥根)	—
ブロック長	遠藤 茂 (宮城)	清水 政義 (東京)	幸脇 直久 (岐阜)	幸脇 直久 (岐阜)	尾崎 文雄 (兵庫)	長井 勤治 (大阪)	山本 紀代 (和歌山)	清田 公典 (愛媛)	渡邊 哲郎 (山口)	川尻 徳 (福岡)
副ブロック長	永嶋 啓一 (福岡)	松尾 鉄城 (埼玉)	小林由美子 (愛知)	小林由美子 (愛知)	横内 恵 (兵庫)	徳永 加代 (大阪)	岸本 秀章 (奈良)	金児 利明 (鳥取)	津田 和也 (広島)	草場 聡宏 (佐賀)
理事 (57名)	棚澤 実 (北海道)	荒井 豊 (埼玉)	杉田 和一 (福井)	杉田 和一 (福井)	田端 孝司 (京都)	芳村美佐子 (大阪)	山中 賢司 (奈良)	鷲見 寛幸 (鳥取)	藤原 尚幸 (鳥根)	船津 勇一 (大分)
	小山 文明 (岩手)	生駒 義郎 (埼玉)	梶原 正史 (山梨)	梶原 正史 (山梨)	新居 寛 (兵庫)	井上 温子 (大阪)	唐錦 秀和 (奈良)	藤原 彰二 (鳥取)	勝田 章 (鳥根)	松川 隆夫 (沖縄)
	槽谷 文夫 (宮城)	野田不二夫 (東京)	森 社 (岐阜)	森 社 (岐阜)	臼井 洋 (兵庫)	雲井 稔 (大阪)	西端 幸信 (和歌山)	千葉 照久 (岡山)	市川 博登 (広島)	
			大畑 健実 (静岡)	大畑 健実 (静岡)	五百住 満 (兵庫)	村田 卓生 (大阪)		佐野 薫 (岡山)	石川 芳己 (山口)	
			山田 達夫 (静岡)	山田 達夫 (静岡)	岡 みゆき (兵庫)			後藤 陽三 (愛媛)		

支部代表 専 務 (31名) 理事兼務 (18名)	水野 和男 (北海道)	吉田 重郎 (茨城)	碓井 欣一 (新潟)	碓井 欣一 (新潟)	西谷 淳 (滋賀)	雲井 稔 (大阪)	岸本 秀章 (奈良)	鷲見 寛幸 (鳥取)	岩田 進 (鳥根)	川尻 徳 (福岡)
	西澤 亨一 (青森)	駒田 郁夫 (栃木)	森山 義人 (富山)	森山 義人 (富山)	大森 直也 (京都)		西端 幸信 (和歌山)	千葉 照久 (岡山)	津田 和也 (広島)	草場 聡宏 (佐賀)
	山本 勉 (岩手)	青木 雅夫 (群馬)	沼田 良一 (石川)	沼田 良一 (石川)	横内 恵 (兵庫)			田村 明敏 (徳島)	石川 芳己 (山口)	平戸 健吉 (長崎)
	佐藤 司 (宮城)	松尾 鉄城 (埼玉)	杉田 和一 (福井)	杉田 和一 (福井)	船本 秀忠 (兵庫)			野島 悟 (香川)		八間川隆彦 (熊本)
	高橋 正規 (秋田)	手塚 裕 (千葉)	梶原 正史 (山梨)	梶原 正史 (山梨)	菅野 恭介 (兵庫)			清田 公典 (愛媛)		曾根崎 靖 (大分)
	本田 礼 (山形)	野田不二夫 (東京)	猪瀬 洋一 (長野)	猪瀬 洋一 (長野)				川崎三雄 (高知)		釋迦堂幾則 (宮崎)
	永嶋 啓一 (福岡)	児玉 祥一 (神奈川)	松村 敏幸 (岐阜)	松村 敏幸 (岐阜)						金久 三男 (鹿児島)
			神尾 義敬 (静岡)	神尾 義敬 (静岡)						松川 隆夫 (沖縄)
			鈴木 均 (愛知)	鈴木 均 (愛知)						
			大森 雅彦 (三重)	大森 雅彦 (三重)						

計	11	10	16	11	7	5	11	8	9
---	----	----	----	----	---	---	----	---	---

註) 明朝体で示す者は理事等と兼務しており、再掲であることを示す。会長・副会長・監事・相談役を合わせて総役員数100 (役員会)、網掛けで記す者22名 (本部役員会)

第37回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会〔関東大会〕



第37回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会〔関東大会〕 平成29年8月5日 於アルカディア市ヶ谷私学会館



▲情報交換会



▲巡検「東京駅集合写真」



▲巡検「靖国神社コース」



▲巡検「下町コース」



▲巡検「東京駅風景」



▲巡検「表参道コース」



▲巡検「皇居コース」

次回は鳥取大会で集おう

◇鳥取大会テーマ 「開山1,300年を迎えた大山の麓で教育の未来を語ろう！」

期日：平成30年8月4日(土)～5日(日)

会場：ANAクラウンプラザホテル米子 (TEL：0859-36-1111) 〒683-0824 鳥取県米子市久米町53-2